

学生の知識や特技を生かし、地域課題を解決する仕組みをつくる

1

チーム名

ボクラモ

チームの目指す姿 → 「やってみたい」が実現できる仕組みづくり

学生の「やってみたい」× 地域の「困った」

さまざまな分野の学生たちが、キャンパスを飛び出し、ここ長久手をフィールドに、学んだ知識を生かした「やってみたい」を実践し、まちの困ったを解決!!
チーム「ボクラモ」は、学生の「やってみたい」と地域課題をマッチングする仕組みを作ることで、学生が活躍できる場を増やし、地域とつながります!!

あんなことやこんなこと

team member interview

チームのみんなに聞いてみました — チームのみんなの物語 —

Q.この市民アクションに込めた想いを教えてください

秋山さん 長久手にはいろんな知識を持った学生がたくさんいるのにその知識を生かせる舞台が全然ない!という僕たち学生の普段の悩みから立ち上げました。自分の周りにも学びを生かした活動がしたいっていう想いを抱いている友達がたくさんいます。例えば、「街中で個展を開きたい」とか「周辺の学校と連携して日本一の

学生音楽フェスをやりたい」とか「学生だけでお店を作りたい」とか、それ本当にできるの!? って言うものが多いです(笑)。でも意外とやってみればできちゃうこともあります。こういう挑戦ができるのも学生の強みだと思います。しかもそういった学生がやりたいこととか学生が普段学んでること、ととてもまちに需要があるんですよ!!



名古屋学芸大学3年 秋山 大希さん

まちづくりの現場に
学生が求められている

Q.活動に参加していて何か気づいたことはありますか?



名古屋学芸大学3年 高木 雅哉さん

こんなに学生が
いるのに...?

高木さん 自分の周りにはこんなに面白い仲間がいたんだなと思いました(笑)。ボクラモがきっかけで他大学の人も仲良くなりました。今では月に一回集まってご飯会も開いています。活動を通して、このまちには多くの学生がまちの活性化を促す可能性を秘めていることを知りました。長久手にはこんなに学生がいるのに力を持って余す学生がいるのはもったいない! 今後はそんな学生たちが活躍できる舞台を作り上げたいです。



これまでのアクション

今までにない新しい防犯教室 「まちを守れ!カラーバン」を 学生の力で企画・運営

小中学生の中で大流行中のテレビゲームを模したアクティブな防犯教室を開催。真っ白な布をインクまみれにし、自分だけのオリジナル防犯ポスターが完成。心理学、デザイン、幼児保育を学ぶ計11人の学生を中心に企画、運営をしました。



【ここが POINT】

とにかく沢山のの人に“想い”を伝え、
他団体とのコラボで企画を実現!

「こんなことしてみたい!」いろいろな人に想いを伝えると、「それならこの場所ならできるんじゃない?」「この人に頼んでみるといいよ!」と、まちのキーマンを紹介してくれました。今回のイベントは、西小校区まちづくり協議会のみなさんの協力で実現できました。

これからのアクション

学生のネットワークづくり

●長久手市内または周辺の学生がつながるネットワーク「ボクラモ実行委員会」を立ち上げ、学生のやりたいことと地域の課題をマッチングする仕組みづくりを行います。

※「ボクラモ」というチーム名には、「僕らもまちの一員」という意味が込められています。



チームからのメッセージ

「学びを生かす場所が欲しい」
「このまちでこんなことやってみたい」
そんな学生の声に応えたい。

「様々な学生たちが集うイベントを開きたい」「大きなライブがしたい」「月に一回学生だけのお店を開きたい」「学生時代に何か功績を残したい!...あなたが密かに抱いている「やってみたい」が、まちを楽しくする糧になる。ボクラモなら実現できるかもしれません。新たな仲間、協力団体大募集!

2

チーム名

ぐるぐる

チームの目指す姿 → 子どもを通じて育て合い育ち合うまちづくり

学校だけがすべてじゃない！ 「子どもの居場所」づくり

学校以外にも、子ども達の居場所を地域にたくさんつくりたい！

チーム「ぐるぐる」は、「学校」以外にも「私たちの居場所があるんだ！」と

子どもたちに思ってもらえるよう、様々な手段で、子どもたちと楽しく思い出づくり

をしながら、居場所づくりに取り組みます！

team member interview

あんなことやこんなこと

チームのみんなに聞いてみました — チームのみんなの物語 —

Q.この市民アクションに込めた想いを教えてください

安達さん 私の身近に、学校に通っていない子どもが結構いて、そうした子どもの中には、普通の授業には行かないけど、通足とか学校でのイベントとかには参加すると聞きました。だから、楽しい場所が増えれば、そうした子どもたちにとっての居場所が増えるかな、と考え、自分たちが通う高校に子どもたちを招き、一緒に楽しいことをしよう、と思いつきました。今回は、調理室で一緒に料理をしましたが、今後は、他の教室でも遊んだりして高校を楽しい場所と思っ

てもらったり、あとは、「子ども食堂」にも興味があり、いつかやってみたいです。

奥田くん 小学生や中学生の子どもたちと年齢に近い高校生だからこそ、すんなり子どもたちと仲良くなれるのではないかと、思いました。今回は、自分の高校と特定の子どもたちだけでしたが、今後は、他校の高校生とも連携して、多くの子どもたちとつながり、高校生から子どもの輪をどんどん広げ、子どもたちの居場所がたくさんあるまちにしていきたいです。



高校生から子どもの輪を広げていきたい

楽しい場所が増えれば
子どもの居場所が増える

※高2年 安達佳奈さん 奥田光成くん

Q.活動に参加していて何か気づいたことはありますか？



自分たちでつくっていく暮らし

大人の凄さを知った

野中くん 長久子では、市民で一から「市民でできること」を考えてそれを実現していて、凄いと思いました。いろいろな人たちが協力し合うことで、まちは自分たちでつくっていくんだな、という可能性を感じました。

河合くん 今まで大人の方を凄いと思ったことはありませんでしたが、今回の活動を通して、大人は、いろいろなアイデアがあるし、行動力もあるし、話もよく聞い

てくれるし、大人ってやっぱりすごいんだな、と思いました(笑)



※高2年 野中伊香くん 河合謙周くん

これまでのアクション

高校の調理室が子どもたちの居場所に!? 「教室で遊ぼう!」と題し、地域の子も達と一緒に調理で思い出づくり

夏休みの子もたちの思い出づくりと地域での居場所づくりを目的に、地域の子もたちを高校の調理室に招き、オムライスづくりを実施。最後に子どもたちに書いてもらった絵日記には、「楽しかった、おいしかった。」の文字が、メンバーと子どもたちも仲良くなりました。



【ここが POINT】

参加者集めに苦戦!最後は、直接“営業”に行き、参加者を確保!

この企画で一番苦戦したのは、参加者集め。チラシをつかって、ただ待っているだけでは参加者は集まらないと思い、自分たちで企画を売り込む“営業”に行きました。話を聞いてくれたのは、名古屋文化キンダーホールのみなさん。結果、キンダーホールの子もたちがたくさん来てくれて、つながることができました。

これからのアクション

特定の子もたちだけでなく、多くの子もたちの居場所づくりに挑戦

- 「食」以外にも「色々な手法(工作、スポーツ・・・)」を用いて、「より多くの子どもたち(市内全域)」の居場所づくりに挑戦します。
- 今後は、アクションの企画・運営から、老若男女問わず多くの人に関わってもらいたい。



チームからのメッセージ

今後のアクションの展開に向けて、
新たな仲間、協力団体大募集!

料理が得意な人、工作が得意な人、人に教えることが得意な人、子ども会・PTAなど既に地域で子どもと関わっている人、地域で新しい居場所を作りたい人、子どもたちと「あんなことをやってみたい!」というアイデアをお持ちの人、・・・ぜひぜひ一緒に活動しませんか?

課題1 団体運営

～町内会役員の負担軽減に向けて～

町内会の活動を支援する組織の創設

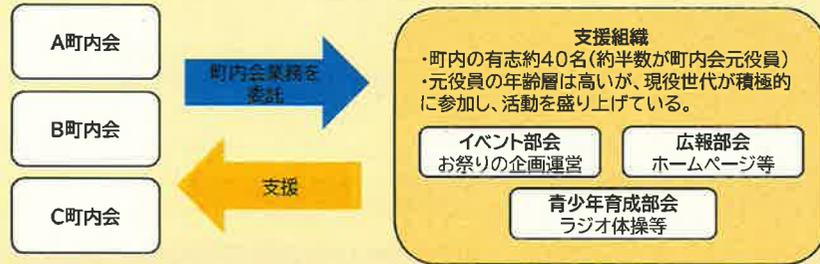
【1 現状・課題】

＞ ある団地では、地域のお祭りの運営を担っていた子ども会が解散し、町内会が運営を行うことになりましたが、町内会の役員は、毎年交代制で人材育成も進んでおらず、お祭りの運営ノウハウの継承もできていません。

【2 地域におけるこれまでの取組内容】

＞ 町内会役員を経験した有志がお祭りの企画運営を引き受け、その活動が発展し、町内会活動の支援を目的とした組織を立ち上げました。
 ＞ 町内会からお祭り、広報活動、子ども会の支援などを受託し、町内会行事のサポートを行っています。
 ＞ 受託業務の経費は町内会の予算が充てられています。

▼町内会と支援組織との関係



▼お祭りの様子



▼オープンカフェの様子



【3 行政等からの支援】

＞ 地域の自主・自律的な取組です。

【4 これまでの成果】

＞ 意欲がある人が活動の担い手となっているため、行事が盛り上がり、町内会からの受託業務だけでなく、有価資源回収によって収入を確保し、オープンカフェなどのイベント活動も行っています。
 ＞ イベントの中で、不動産、家財整理、リフォームの相談などを行い、住民の様々なニーズに応えています。

【5 今後の更なる活性化のための取組の方向性】

＞ 共助の取組として支援組織では、団地住民の高齢化に対応した取組などにも取り組もうとしています。
 ＞ 公助の取組として行政等では、更なる発展的な活動を支援するため、地域からの求めに応じて補助金[※]の活用などを提案します。

※ 区の魅力と活力向上推進事業補助金

※ 他地区で展開する際のポイント

- ◎ 町内会の役員の負担を軽減するには、町内会の業務を委託するなど、外部の力を活用することも効果的です。
- ◎ 負担軽減だけでなく、地域活性化のきっかけとなること期待できます。

課題2 活動の担い手

～地域住民の生活支援に向けて～

町内会を基本とした日常生活のサポート

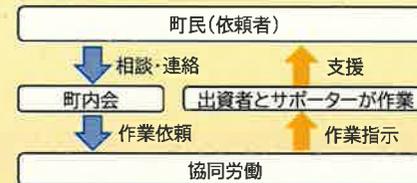
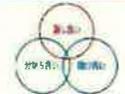
【1 現状・課題】

＞ ある団地では、65歳以上が3割を超え、高齢者支援等が必要ですが、活動の担い手がおらず地域活動に限界を感じています。
 ＞ 地域の人々が絆を深め「住んで良かった、住み続けたい」まちづくりを進めるためお互いに困ったことを助ける仕組み作りを目標としました。

【2 地域におけるこれまでの取組内容】

＞ 話し合いの中で、市が推奨している協同労働^{※1}の仕組みに着目し、地区社協、町内会をはじめ学区内の全団体が支援母体になって協同労働団体を新たに設立しました。
 ＞ 協同労働団体では、網戸の修復や包丁研ぎなど日常生活の困りごとのサポートを行っています。
 ＞ 支援は町内会を通じて行われる仕組みとなっています。
 ＞ 高齢化による移動困難者の増加の現状やニーズを踏まえ、新たに病院や買い物に付き添う移動支援サービスを開始しています。

※1 みんなが自らできる範囲で出資し、みんなが対等な立場でアイデアを出し合って人と地域に役立つ仕事に取り組む仕組み。地域課題の解決を全てボランティアとして行うのではなく、活動に従事した人が一定の収入を得ることができる。



▼網戸の修復



▼包丁研ぎ



【3 行政等からの支援】

＞ 市の協同労働モデル事業^{※2}や県共同募金会の地域テーマ募金^{※3}による支援を行いました。

※2 ① コーディネーターの派遣

経験豊富なコーディネーターが事業の立上げに向けた勉強会の開催や補助申請書類の作成支援などを行うとともに、立上げ後も継続して助言します。

② 補助金の交付

3年以上継続が見込める事業の立上げ経費に対する補助金を交付します。

【補助対象団体】 構成員が4人以上かつ半数以上が60歳以上の団体

【補助限度額】 100万円(補助率1/2)

【補助対象経費】 事務所開設費、物品購入費、広報宣伝費、人件費等

※3 地域の住民団体等が、区社協と協働し、地域の様々な課題を解決するプロジェクトに対し、1月～3月期に地域で集めた募金額に応じて共同募金会が配分金を加算する仕組み(上限300万円/年度、最大3年度)。

【4 これまでの成果】

＞ 協同労働の仕組みで一定の収入を得て支援活動に参加する人数は、設立当時と比べ約2倍に増え、地域活動の担い手の確保につながっています。

【5 今後の更なる活性化のための取組の方向性】

＞ 共助の取組として地域では、日常生活サポートを行う中で依頼者の生活状況などを見て、必要に応じて地域包括支援センター等へ情報提供し、必要な支援につなげていくなど、住民がいきいきと生活するための取組を行います。
 ＞ 公助の取組として行政等では、協同労働団体が継続的かつ安定的に運営できるよう、引き続き地域からの求めに応じてコーディネーターの派遣などを行います。

※ 他地区で展開する際のポイント

- ◎ 困りごとのある人が町内会に相談する仕組みとすることで、町内会が住民の状況を把握しやすくなり、住民同士の絆が深まっています。